

俺の就活記

沼津工業高等専門学校 2年 谷野 颯太

今日、二千百二十年九月十四日。俺はある会社の就職活動に来ていた。

その名もMDA株式会社。正式名称で言うと、「火星ダイアクリア地域空気管理株式会社」この会社では火星での家庭内での空気の管理を行っている。

空気といえば地球外惑星居住では、一番のインフラ事業だ。地球外惑星では何をするにもまずは空気が必要になる。そこを押さえているのだから、まあ莫大な儲けになるだろう。

元々は「火星空気管理公社」が公営事業として管理していたのだが、火星に住む人々が増えてきたこともあり民営化されたのだった。

うう、しかし緊張してきた。元公営事業とあつて会社の規模もかなりでかい。しかも俺は総合職希望。かなりの狭き門だ。

しばらくすると、俺の一つ前の番号の就活生が、嬉しいのか悲しいのかどっちつかずの表情をして、帰ってきた。

さあ、次はいよいよ俺の番だ！

「千九百八十四番。入室してください」

無機質なアナウンスが流れると、受付で渡されたマザーボードにパスワードが表示される。それを確認し、いよいよ面接室に向かう。面接室には電子キーがあるのでさっき表示されたパスワードを入力するのだ。

ここで一つポイントだ。パスワードは手で入力する事。マザーボードをかざしてロックを開ける事もできるが、それでは失礼に当たってしまう。

無事キーが空いたら、次はノックをする。回数は絶対に三回だ。二回はトイレ。四回はロボットが入室する時の回数になってしまうからだ。

さあ、扉が開き、いよいよ入室だ。部屋に入り、まずキュレータースーツの第三トグルをオンにする。これは忘れがちなので注意が必要だ。

さ、今日の面接官は…よし！AI面接官がいらないぞ！彼等ほどマナーに厳しい面接官はいないからな。

面接官を一瞥した後、マザーボードによる本人認証を行う。無事成功し、いざ面接開始。ここからが本番というわけだ。

さあ、まずはブレーミングチェアに座る所からだ。これは初歩の初歩だが、だからこそ一番間違えやすい。

まず、ブレーミングチェアに座ろうと思った時、一番最初にある問題が浮上してくる。そ

う、レイザパネルの位置だ。驚くべき事に、世間にはレイザパネルのアームをうごかして座れ、と言う就活アドバイザーがいるらしい。ここにはつきり言っておく。そんなものは大間違いだ。就活生たちは騙されないように。正しくはチェアの後ろを通る、だ。

無事、失礼なくブレイミングチェアに座ることができた。その後、ちよとした雑談の後、面接官が質問を飛ばしてくる。

「何故、弊社を志望されたのですか？」

うむ、テンプレートの質問だ。

「はい、御社の給料が良いからです。」

そして、これもテンプレートの返しだろう。昔はなんだか耳障りの良い嘘八百を並べていたそうだが、今や思考を読む事なんて簡単だ。正直に答えておくのが吉だろう。

面接官からの質問に答えていつて、

「本日は以上です。お疲れさまでした。」

と、告げられる。これで終わりだと安心してはいけない。むしろ、これは開戦の合図。

戦前のドラのようなものだ。ここからは怒涛のマナーラッシュだ。

まず、レイザパネルにリダイレクトをし、面接官への感謝を見せる。次にブレイミングチェアを忘れずプライコルトする。少し古風なやり方だがやれることはやっておいた方がよいだろう。そして、退室後マザーボードのリセットをして、受付のロボットに返却する。帰る瞬間ギリギリまで気を抜いてはいけないのだ。

さあ、ここまで読んで頂いて、大多数の方が俺の失敗に気づいているだろう。

そう、俺は第三トグルのスイッチをオフにし忘れていたのだ。しかも、それに気づいたのは帰りの分子離散飛行中。急いで家にあるインターネットのルーターを引っ張り出してキオネル信号を送ったが果たしてどうだろうか。くれぐれも就活生達は気を付けて頂きたい。